

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401426		
法人名	有限会社 気楽		
事業所名	グループホーム ポテトの丘	ユニット名	
所在地	長崎県雲仙市愛野町乙3501番地3		
自己評価作成日	平成24年12月18日	評価結果市町村受理日	平成25年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F
訪問調査日	平成25年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家族の思いも踏まえて、一人一人の気持ちを汲み取りながら、日々の生活を共にすごす。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームの前は海が広がっている。車いすの方も増えている中、気候の良い時はホームの庭に出て海や空を眺め、食事をする時間が作られている。体調に応じてドライブに出かけたり、家族と一緒に自宅に帰る機会も作られている。お誕生日には、希望に応じて回転寿司に出かける方もおられ、お店の方が小さな握り寿司を作って下さり、ご本人もとても喜ばれた。言葉での意思疎通が難しい方が多く、職員が利用者の傍に座り、真剣に思いを聞きとる姿勢も増えており、ジェスチャーや声のトーンで思いや意向を確認している。小さな表情の変化を読み取る事ができる職員も多く、職員同士のチームワークも良くなっている。洗濯物畳み・新聞折り・塗り絵などの役割や楽しみ事しながら過ごして頂いており、24年6月に開設した”宅老所 音色”を利用する方との交流も増えている。理念にも通じる、“今とゆう時間を大切に・・・そっと寄り添い共感し・・・人間として誇りを持ち、自分らしい最終を迎えるために・・・”、運営者の方々の思いを職員は理解し、常に利用者を大切に思う関わりが続けられている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえて、今一度理念とは何か、理念が持つ意味を話し合おうと思っているが、実行できていない。朝礼時、理念を復唱し意識を持つようにしている。	利用者の気持ちを受け入れながら、笑顔を引き出す支援を続けている。24年夏頃から理念の唱和をしており、今後は更に、“今日の目標”を職員個々に作っていく予定にしている。職員が利用者に成り変わり、声かけの仕方を体験する事で、職員もご本人の心理の理解が深まってきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	身体的理由もあり日常的な交流はないが、運営推進会議の時等に話しかけて頂いている。出かけていくのが難しいので、外部からの交流を図る必要がある。	ゴミステーションの花壇作りや清掃作業に管理者が参加している。地域の集まりでは食事会等も楽しまれ、地域の“支援マップ”作りも継続中である。小中学生がホームでレク等をして下さり、“認知症”の講も行われ、「こんな仕事に就きたい」と言う感想を下された。地域の方から「相談できる所ができた」と言う声も聞かれ、嬉しく思っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の方達には、話す機会をもうけている。又気軽に相談に来て頂けるように声かけはしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	和やかな雰囲気であり、皆さん思い思いの意見を出してくださっている。	地域の方から老人会や町内会の活動を教えて下さり、地域包括の方は介護保険制度や健康管理の大切さを伝えて下さっている。お菓子を持参して下さる方もおられ、入居者と一緒に歌を唄う機会もあり、和気あいあいとした雰囲気になる。困った時にはホームに相談して頂けるように、今後も発信していく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあった時は相談に乗って頂いているが、連絡は密に摂っていない。	系列施設である“宅老所音色”を24年6月に開設した事もあり、雲仙市との情報交換も深まっており、相談時には親身にアドバイスを頂いている。運営推進会議に地域包括の方が参加して下さり、勉強会を行う事もできた。申請や手続きのために管理者が支所を訪れ、入居の時には広域の方に報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はほとんどないが、状況的にスタッフが目を見離さないといけない時は安全を考え玄関を施錠する時がたまにある。	他施設の虐待記事が掲載された新聞の切り抜きを職員と共有している。“身体拘束は原則全面廃止”という方針のもと、利用者個々の行動や心理を把握し、職員同士が連携しながら、“身体拘束の無いケア”を続けている。お気持ちが混乱されている時は職員が寄り添い、その方の世界に入って喜怒哀楽を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	ニュース等で報道があった時は、情報交換をし虐待がないように努め又スタッフ間がより良い関係を築くように努めていく。入浴時身体をチェックをしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	周りに対象者が居ない事もあり、勉強していない。勉強をしながら少しずつ、理解していく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時は説明したうえで、納得をして頂いている。来訪時等気楽に尋ねて頂くように、声掛けをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等聞くようにしているが、本音等言われないような気がする。	水面下にある思い(喜びや辛さ)を察しながら、家族の真の思いを伝えて頂けるように努めている。写真を満載した“ポテトの丘だより”を楽しみに綴っている方もおられ、会話のきっかけにもなっている。家族の方が、色紙や飾り、お饅頭などを作ってきて下さり、一緒に外出したり、お部屋でお経を読んで下さる方もおられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を聞く機会をもうけているが、運営に反映できているかは解らない。	職員の意見を常に聞いて下さる運営者であり、新人職員も先輩に相談しやすく、職員同士の仲も良い。利用者の心理を深く考えながら、誕生日の外出企画などを職員が検討している。ケアの仕方やパッドの選定、食事の形態など、色々な意見が出されている。	これからも職員の要望やアイデアを活かし、実行に移していきたいと考えている。職員が胸に秘めているアイデアや“わくわくプラン”を伝えて頂くために、会議の場や理念を唱和する時に、職員の意見を積極的に伝えてもらう機会を増やしていく予定にしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要求を受け入れて、無理が無い条件で仕事ができる体制を作るようにしている。介助に必要な物は整えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を開示しており、個々にあった研修を勧めている。研修に行き向上してもらいたいが、環境面で難しい面もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は支部の会議に参加し交流をしている。支部の研修には、ほぼ全員の参加を促がしサービスの向上い繋がるようにしている。		

自己	外部			自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		入居前に情報を全員で共有し、入居後は日々変化があり、本人の様子観察をしながら会話や態度から把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている		家族の要望を取り入れるようにしているが、要望を言えない心境であることを十分理解し、話しやすい雰囲気づくりを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		情報を基にミーティングを開き本人が必要としている支援内容を話し合い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		人生の先輩であるが、親子のように時には親しい知人のように接し、馴染みのある言葉遣いで話しかけたりしている。重度化の方が多く、スタッフサイドで支援している面もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている		様子を家族に伝えながら、絆が途切れないように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		外出が難しくなっているが、気軽に来訪して頂くように声掛けを心がけている。	家族が来られた時にはテーブルや椅子を部屋に運び、ゆっくりと過ごして頂いている。重度化に伴い、馴染みの方の把握が困難な方もおられるが、個々の誕生日などには、自宅や懐かしい場所に行き、家族に会える機会が作られている。家族からの情報もあり、参拝されていた神社や馴染みの散髪屋にお連れしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている		重度化であり難しい面もあるが、できるだけ利用者同士が関わり合いができるな空間作りを心がけている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	訪問して頂いている方もおられるが、ほとんどのかたは疎遠になっている。相談等がれば、応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの思いを聞き取る事が難しいので、時間の経過の中で感じ取り把握しようとしているが、それが希望にそっているか解らない。	言葉での意思疎通が難しい方が増えており、表情や仕草等から思いを汲み取るように努めている。職員が利用者の傍に座り、真剣に思いを聞きとる姿勢も増えており、ジェスチャーや声のトーンで尿意などの意向を確認している。小さな表情の変化を読み取る事ができる職員も多く、職員同士の情報共有を続けている。	新しい職員も増えており、より多く“寄り添いの介護“ができるように努めると共に、ご本人が何を伝えようとしているのかを、更に把握していきたいと考えている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や面会の方から、情報を取り入れるようにしている。小さな事でも見逃さず、情報を共有するように努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化があり状態に合わせスタッフ間の連携に努めているが、重度化して来たこともありスタッフ中心のケアになりがちである。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・本人の思いを汲取り入れながら、スタッフ全員の意見や気づき等を反映し、その人にあつた計画を作成するようにしている。	利用者と家族の意向を基にミーティングで話し合い、全職員で介護計画を作成している。“孫の顔を見る”“美味しいものを食べる”“洗濯物をたたむ”食器を拭くなどの役割や楽しみも盛り込まれ、通院や食事介助、散歩などの家族の役割作りも大切にしている。車いすを自走したり、手を繋いで歩行する支援も続けられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に記入し職員間で共有しながら、実践に努め生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	次々に変わる状況の中で柔軟な支援に取り組んでいるが、それが本人にとって心地よいものになっているか疑問である。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	重度化が進む中、心身共に発揮することが、とても難しくこれからの課題である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望により同意を得、かかりつけ医をもっているが、受診は家族と共同で支援している。通院が無理な人は、往診をお願いするようにしている。	ホームに看護師が勤務しており、職員の安心となっている。週に1回は訪問看護を利用し、往診も受けられ、24時間体制で医療機関との連携が取れる体制ができている。職員の観察力も高くなり、早期対応も行われている。行動障害等は専門医に相談し、適宜アドバイスを頂けており、家族との受診結果の共有もできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護師・毎週の訪問看護師に、最近の状態を伝え指導をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は足を運び家族とも情報を交換をし、経過を見守りながら、早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で伝えてはいるが必要な時期が来たら、方向性を家族と話しあいながら決めている。又主治医・訪問看護・往診医・職員と連携し取り組んでいる。	「最期はホームで…」という方も多く、医療機関での治療の必要が無い場合は、利用者、家族の意思を最優先としている。終末期には他の利用者も声をかけて下さり、家族や牧師、シスター、信者の方が来て下さり、ご本人の笑顔を見る事ができた。ホームの看護師を中心に、主治医と訪問看護師との連携も図り、職員全員で精神誠意のケアをさせて頂いた。ご本人の生命力を学ばさせて頂く機会にもなった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回訓練を受けているが、身につけているか不安であり、今後も実施していく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練は実施しているが、認知レベルの低下に伴い重度化も進んでいるので、これからも訓練して行く必要がある。	職員による夜間想定自主避難訓練を行うと共に、愛野分署の方々と昼夜を想定しての訓練も行われている。消火器の使い方、応急手当、AEDの使い方の研修も受け、地域の消防団・地区住民・避難家屋・近隣職員の家族にも協力をお願いしている。災害に備え、1週間分の食料と水が準備されている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	表情や態度を伺いながらタイミング良く接するよう心がけているが、うまくいかない時もある。又忙しい時は、言葉賭けが雑音になる時もある。	ご本人のペースを尊重し、“自分の家族だったら”という思いで日々のケアが行われている。職員自身が利用者に成り変わる経験を積む事で、“座っていて下さい”と言う言葉も無くなり、職員の行動も着実に変化している。方言を使う時も敬う気持ちを持ち、薬の配薬をする時にも、同じ目線でケアをするように伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉にして自分の思いを伝えられない方がほとんどだが、返事はなくても簡素に話すようにしている。決定出来ないとしても、言葉賭けに心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行動を制止しないように、そっと見守りながら支援している方もいるが、重度化の為、スタッフの都合を優先してしまう事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の方は毎日、髭剃りをするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は話掛けながら、一緒に食べるようにしている。重度化により準備や片づけはできていない。	調理担当の方や職員が愛情込めて3食を作られている。地元のじゃがいもを使った料理と共に旬の食材や果物も多く、おやつやドリンクも手作りしている。小さいおにぎりや刻み食なども作り、自分で食べられるように工夫しており、ご本人のペースで食事をされている。誕生日には、希望に応じて外食を楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を把握し、個人にあった食事携帯を変え摂取できるよう務めている。水分補給が摂れない方には、お茶ゼリー等で補っている。栄養補給の必要な方には、エンシュアゼリー等で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内のケアは個人に合わせ、歯ブラシやガーゼ等で対応している。嫌がる方のケアが不十分な時がある。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間は一人々の排泄パターンを把握し、出来るだけ失禁しないように、トイレでの排泄を支援している。	できるだけ布パンツ(+パット)で過ごして頂けるように努めている。利用者個々の排泄感覚を把握しており、個別の誘導を続けている。入居時にリハビリパンツを使用していた方が、事前誘導により布パンツや3Dパンツに変更できた方もおられ、羞恥心にも配慮し、トイレの外で様子を伺う事もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体的に運動は難しいが、飲食物を取り入れたり予防に取り組んでいるが、改善しない場合は主治医の指示で下剤を用いることもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	便失禁等を除き、基本的には入浴日や時間帯を決めている。	毎日入浴できる体制であり、好みの湯温に調節し、ゆっくり湯船に浸かれている。お風呂好きな方が多く、湯船で歌を唄われたり、職員との会話を楽しまれている。つかまり棒や滑り止めマットを活用し、転倒には十分配慮しており、必要時は2人で介助している。洗身時は、自分で洗える所は洗って頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体の状態を観ながら夜間以外でも午前・午後に関わらず、ベットやソファに休む方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬一覧表を見ながら間違いが無いように支援しているが、目的や副作用・用法や用量までは理解していないので勉強する必要がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった洗濯物畳み・新聞折・モップ掛け・塗り絵等をしてもらう事で、役割や楽しみ事をしながら過ごして頂いている。今後も考えていく必要がある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的には外出できていないが、気候の良い時は庭先での日光浴や食事をしている。重度化ゆえに遠出でなくても、外気に触れる時間をもっと増やしていかなければと思う。	心身状況の変化もあり、車いすの方も増えているが、ホームの庭に出て海や空を眺めたり、食事をする時間が作られている。体調に応じてドライブに出かけたり、家族と一緒に病院受診し、自宅に帰る機会も作られている。24年度は、希望に応じて、お誕生日の時に回転寿司に出かけ、お店の方が小さな握り寿司を作って下さり、ご本人もとても喜ばれた。今後も、季節に応じたドライブを楽しむ予定にしている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している人がいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙のできる方は、ほとんどいないが希望があればしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすい室温に心がけ、季節の花・絵を貼り雰囲気作りをしている。	ホームから海を見る事ができる。リビングに置かれていたソファーを白に変更し、更にお部屋が明るくなっている。リビングの壁には利用者の塗り絵があり、廊下には職員や家族による手作りの作品が飾られている。玄関横に職員の写真を掲示し、親しみを感じてもらう事ができている。リビングは床暖房であり、温湿度の管理も行き、換気も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その人にあつた場所があり、くつろげるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	物を置ける入居者は居ないが、工夫をして壁に家族の写真・自作の絵等を貼ったりしている。誕生日の色紙や折り紙で折った花束を飾っている。	居室は明るく、布団や衣装ケース等を持ち込まれている。ラジカセやカセットを持参し、好きな音楽を流している方もおられ、ご本人の居室でピース手芸をされる家族もおられる。家族が作られた折り紙の作品やお孫さんが書かれた絵、家族の写真なども貼られ、職員からの誕生日プレゼントである”ご本人の似顔絵”等も飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人々に合うような環境づくりをしているつもりである。居室・共同空間の整理整頓に心がけてる。		

事業所名: グループホーム ポテの丘

作成日: 平成 25 年 2 月 20 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	職員が胸に秘めているアイデア・プラン・要望・意見等を伝えてもらう機会を増やしていく予定である。	運営に関する意見や提案を聞く機会を設けることにより、理念を共有して実践に繋げることができる。	個々に1週間の目標を付箋に記入し、見やすい箇所貼る事で、意識をたかめ実践に繋げることができる。	1年 ヶ月
2	23	一人々の思いや暮らし方が希望に添うよう、変化を読み取っていく。	一人々の思いや暮らし方が希望に添うことができる。	本人が何を伝えようとしているかを、表情・しぐさ・行動等から汲取り、情報を共有する。	1年 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月